



THE MAUREEN AND MIKE MANSFIELD FOUNDATION

Promoting Understanding and Cooperation in U.S.-Asia Relations since 1983

ニュースリリース
2015年7月20日

第3期「マンスフィールドーPhRMA 研究者プログラム」 参加者決定

(ワシントン DC) このたび第3期「マンスフィールドーPhRMA 研究者プログラム」に参加する研究者8名が決定いたしました。本プログラムは、医薬に携わる日本の若手研究者8名を米国に短期間派遣し、米国におけるトランスレーショナルリサーチ、保健医療政策、医薬品研究、規制慣行について学ぶ機会を提供するものであり、2013年初頭に発足し、米国研究製薬工業協会(PhRMA)の支援を受けて実施しています。

本プログラムでは、日本の医療・医薬品研究分野の研究者を毎年米国に派遣し、ワシントン DC、フィラデルフィアおよびボストンでの会合や施設訪問を通じ、米国におけるトランスレーショナルリサーチ促進のための医療エコシステムについて理解を深め、探究する機会を提供いたします。本年の第3期プログラムに参加する、将来活躍が期待される研究者の方々は下記の通りです：

橋本尚佳 国立がん研究センター研究所 分子細胞治療研究分野 リサーチレジデント
伊藤陽一 北海道大学大学院医学研究科 医学統計学分野 准教授
桑原宏哉 東京医科歯科大学 脳神経病態学分野 特任助教
水野和恵 東京大学大学院工学系研究科 マテリアル専攻 日本学術振興会特別研究員(PD)
中谷文彦 国立がん研究センター 東病院・中央病院 骨軟部腫瘍・リハビリテーション科 医長
下畑享良 新潟大学 脳研究所 神経内科 准教授
上田恵子 国立循環器病研究センター 再生医療部 室長
山口貴世志 東京大学医科学研究所 臨床ゲノム腫瘍学分野 助教

一行は9月中旬に、ワシントン DC、フィラデルフィア、ボストンを訪問する2週間のプログラムに参加すべく、訪米します。米国政府の医薬品研究プログラムの責任者、研究結果を応用へと導くトランスレーショナル・リサーチの専門家など、大規模な医薬品研究プログラムに携わるシニアレベルの専門家との会合を行います。ワシントンDCでは米国国立衛生研究所(NH)や米国食品医薬品局(FDA)、米国議会やシンクタンクの医療専門家、フィラデルフィアでは製薬企業の研究開発センターやペンシルバニア大学の The Institute for Translational Medicine and Therapeutics(ITMAT)、ボストンでは製薬企業、タフツ大学の The Tufts Center for the Study of Drug Developmentなどを訪問し、専門家と面談します。

日本に帰国後、当プログラム参加者は、この米国研修で実際に学んだ知見や経験を同僚と幅広く共有し、日本の研究開発政策の改善に寄与することが期待されます。第1期、第2期の本プログラム参加者は、自身の研究や所属機関、そしてさらに幅広い機会において、本プログラムを通じて得られた経験を活かしています。

モーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財団は、米国歳入法501(c)3条によって認可された民間の非営利団体です。マンスフィールド財団は、モンタナ州選出の上院議員、多数党院内総務、駐日米国大使として、その生涯を通じて、米国とアジア各国の相互理解および協力関係を深めることに力を注いだマイク・マンスフィールド大使(1903~2001年)とモーリーン夫人の意志を受け継ぎ、1983年に設立されました。夫妻が米国とアジア各国との関係について抱いた価値観、理想、ビジョンは、財団の交流、政策対話、研究および教育プログラムに受け継がれ、米国およびアジアのリーダー間のネットワークを生み出し、公共政策に影響を与える根本的な問題を探求し、米国のアジアの国々や人々に対する意識向上につながっています。財団の事務所はワシントンDC、東京、モンタナ州ミズーラにあります。